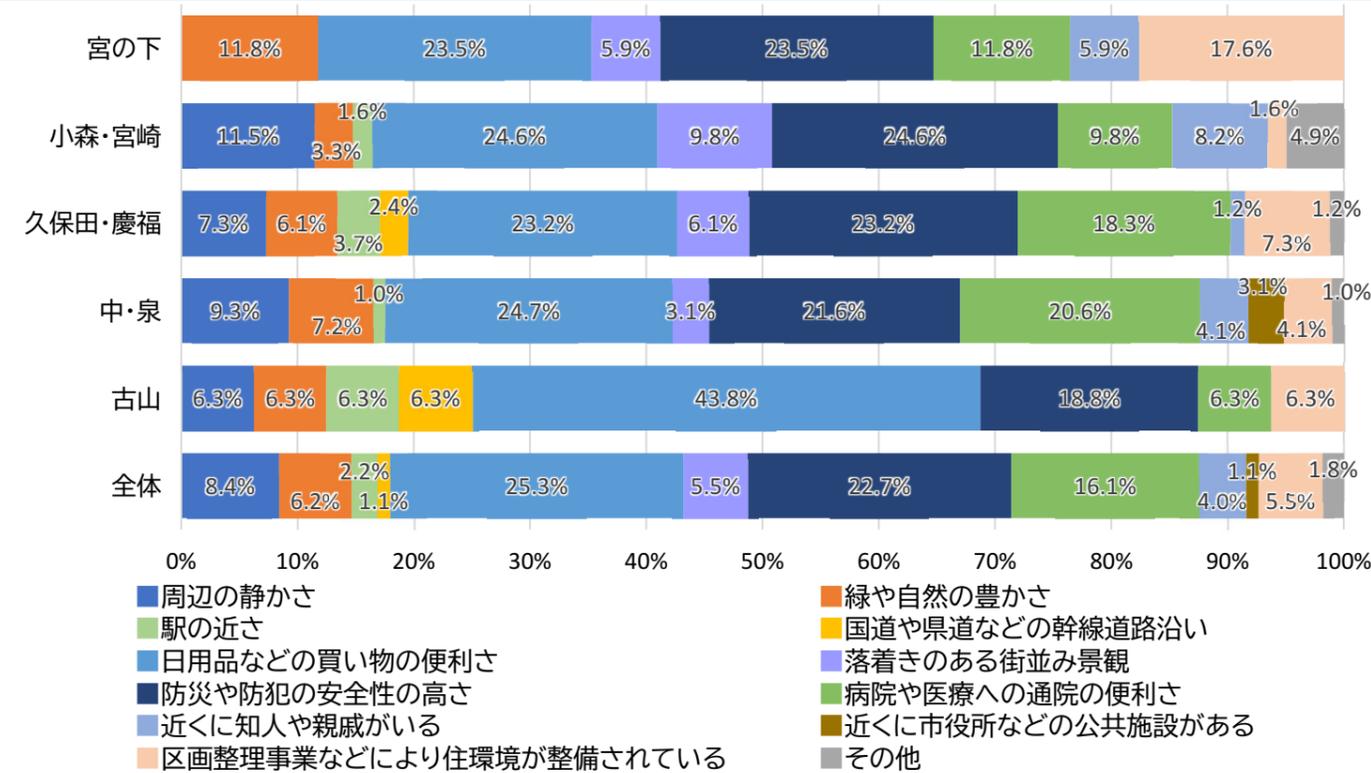


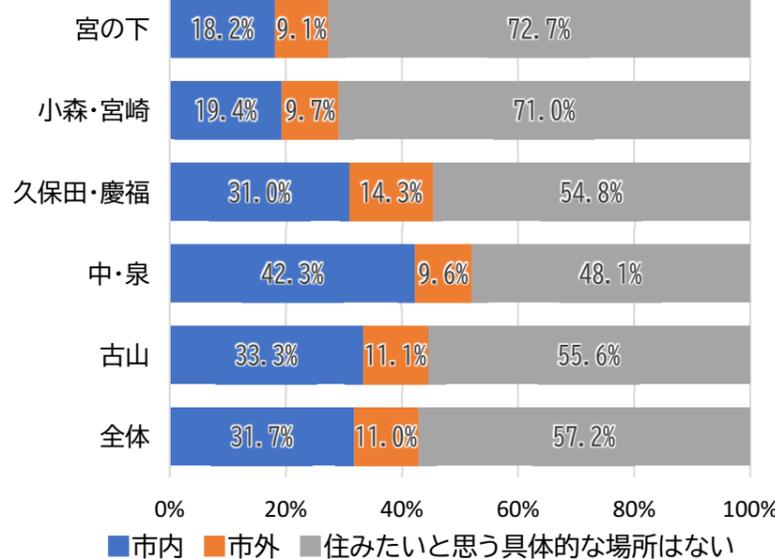
②移転する場合、移転先にどのような環境を望みますか。

- 全体で「日用品などの買い物の便利さ」が最も多く、特に『古山』では4割以上と他地区に比べて高くなっていることが特徴となっています。また『宮の下』、『小森・宮崎』、『久保田・慶福』では、防災や防犯の安全性の高さについても同程度の割合で高くなっており、移転先では日常生活での利便性ととも、安全性の高さが重要な要素となっていることがわかります。



③住みたいと思う場所はありますか。また、具体的な場所はありますか。

- 『宮の下』、『小森・宮崎』では、具体的な場所がない割合が7割以上なのに対して、『久保田・慶福』、『中・泉』、『古山』は半数程度となっています。
 - 移転先は、5地区ともに市外よりも市内が高い傾向がみられます。
- ⇒移転を検討する際には、②で挙げた移転先に求める意向なども考慮しながら、進めることとなります。



本調査の結果は、将来的な地域の防災・減災対策の立案等に活用していきます。

【お問合せ】

結城市都市建設部都市計画課
〒307-8501 茨城県結城市中央町二丁目3番地
電話：0296(34)0422/FAX：0296(33)6627/e-mail：toshikeikaku@city.yuki.lg.jp

「結城市 住まいと防災に関するアンケート調査」
～ 調査結果の概要報告 ～

市民の皆さまには、日ごろから結城市のまちづくり行政にご理解・ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

令和2年12月に実施しました「結城市 住まいと防災に関するアンケート調査」の結果がまとまりましたので、ご協力いただいた皆さまへ調査結果の概要報告を致します。

■調査対象

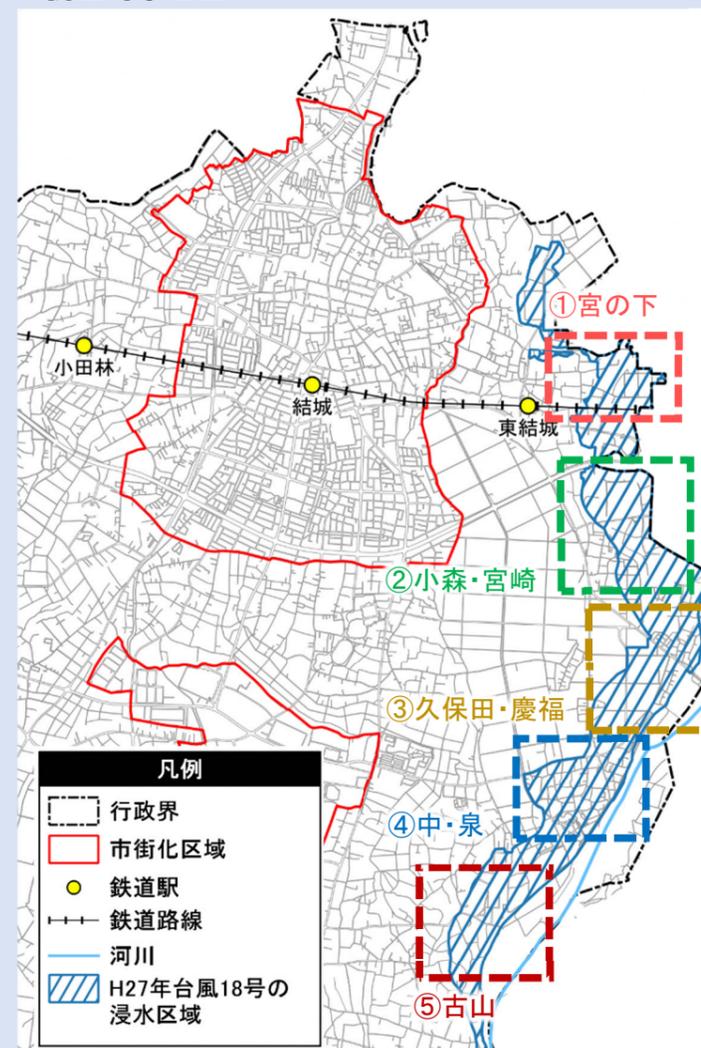
「平成27年9月関東・東北豪雨」において、床上・床下浸水の被害があった下の図に示す5地区にお住まいの方を対象に実施しました。

■回収結果

調査票を配布した766通のうち、383通の返信があり、回収率は50.0%となっています。

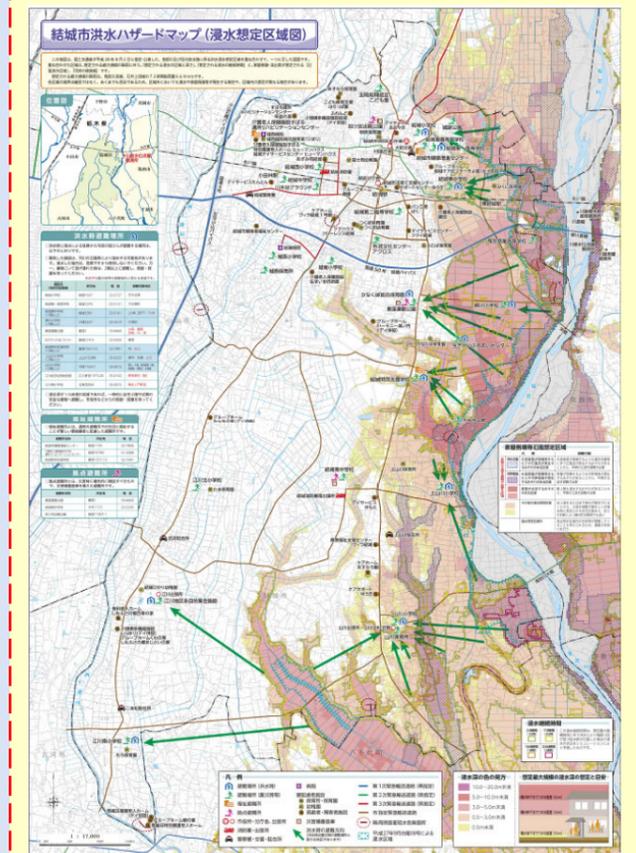
配布数	回収数	回収率
766通	383通	50.0%

■調査対象地区



■結城市洪水ハザードマップでは・・・

今回の調査対象地区は、大雨によって鬼怒川や田川が氾濫した場合、河川沿岸の地域では、深いところで5.0m以上の浸水が起こると想定されており、将来的に洪水の危険性が指摘されているエリアとなっています。



～ 結城市防災ハザードマップ ～

洪水のほか、地震や土砂災害に関する各種ハザードマップの詳細についても、結城市ホームページでご覧いただけます。

こちらのQRコードより、ご自身のスマートフォンなどで、簡単にアクセスすることができます。

ぜひ、ご利用ください。

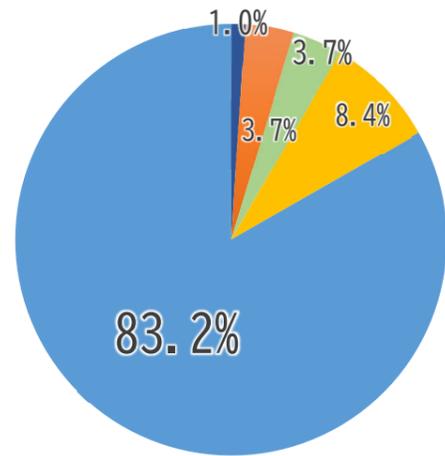


アンケート調査の結果概要

1. 居住年数と住まいの形態

①居住年数

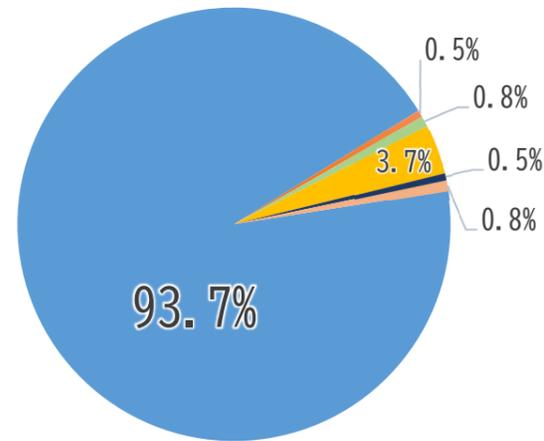
- 「20年以上」の割合が8割以上と最も高くなっており、古くからこの地で生活されている方が多くなっています。



- 1年未満
- 1～5年未満
- 5～10年未満
- 10～20年未満
- 20年以上

②居住形態

- 「持家（一戸建て）」の割合が9割以上と最も高く、次いで「公営住宅」が3.7%となっています。

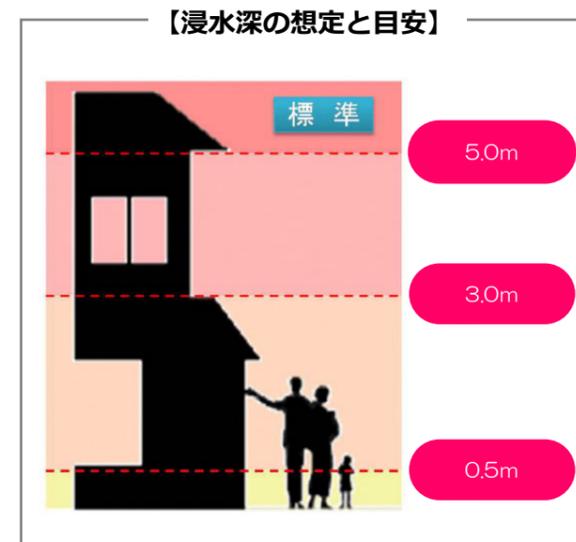


- 持家(一戸建て)
- 持家(集合住宅)
- 借家
- 民間賃貸住宅(一戸建て)
- 民間賃貸住宅(集合住宅)
- 公営住宅

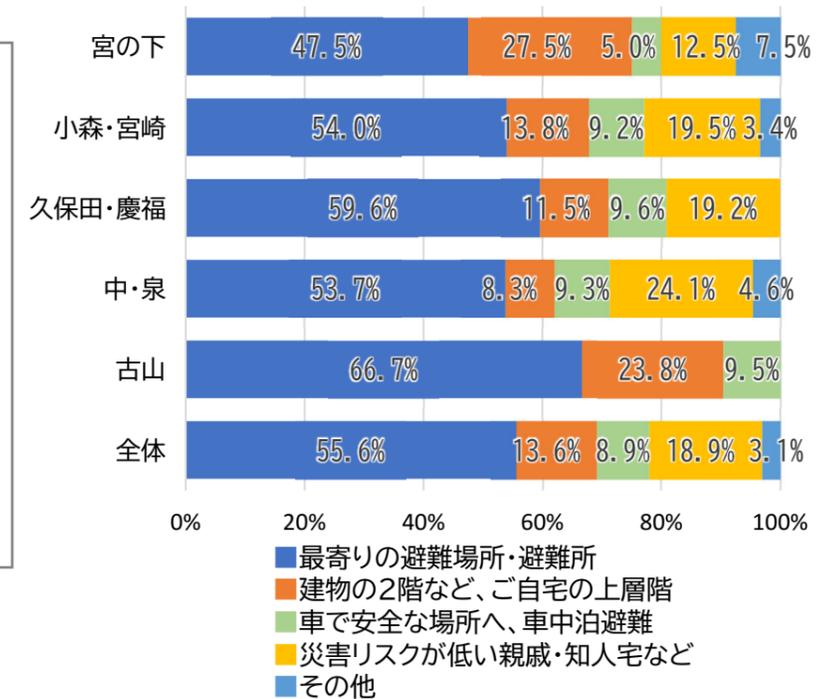
②水害による避難が必要になった場合、どこへ避難することを考えますか。

- 全体で「最寄りの避難場所・避難所」に避難する方が半数以上と多い一方で、避難方法として望ましくない「建物の2階など、ご自宅の上層階（宮の下、古山）」や「車で安全な場所へ、車中泊避難（小森・宮崎、久保田・慶福、中・泉、古山）」が一定数みられます。

⇒洪水ハザードマップでは、深いところで5.0m以上の浸水が想定されており、下の図のように建物の2階が浸かってしまうおそれがあります。いざという時に逃げ遅れないためにも、事前に避難予定の市指定避難場所及び避難経路の確認並びに避難するタイミングについて確認し、市からの警戒情報が発令された場合には、指定避難場所に速やかに避難しましょう。



洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)

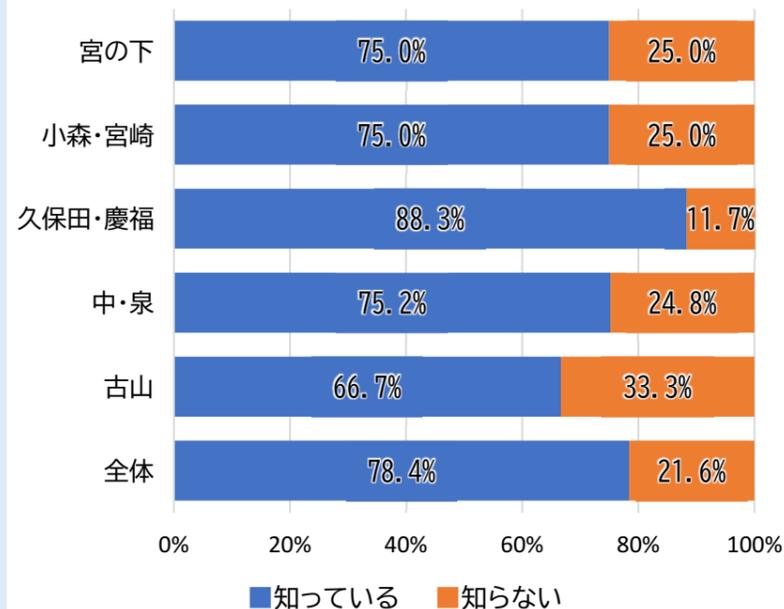


2. 地区ごとの主な傾向(日常での災害への備え)

①ご自宅周辺の洪水ハザードマップ(浸水想定区域図)を知っていますか。

- 全体で「知っている」が7割以上とほとんどの方が、洪水ハザードマップを認知している一方で、「知らない」方も一定数みられます。
- 地区別の「知っている」割合をみると、『久保田・慶福』が約9割と高い一方、『古山』では7割弱と、認知度に差がみられます。

⇒洪水ハザードマップ等を確認することが、地域の防災力向上に向けての第一歩となります。お住まいの周辺地域における災害リスクについて再認識するとともに、身近な避難場所・避難所の位置について把握することが大切です。



3. 地区ごとの主な傾向(移転意向)

①現在お住まいの場所から他の場所へ移転することについて、お答えください。

- 全体で「思わない」が半数以上を占めており、特に『宮の下』では、7割以上と最も高くなっています。
- その一方で、『中・泉』では、他地区に比べて、移転意向（「常に思っている」+「ときどき思うことがある」）の割合が約半数と多いことが特徴となっています。

⇒他の場所への移転も災害リスクを回避する一つの選択肢として考えられます。そのため、今後想定される災害リスクの周知とともに、安全性の高い場所への移転に向けた支援策等について、検討していきます。

